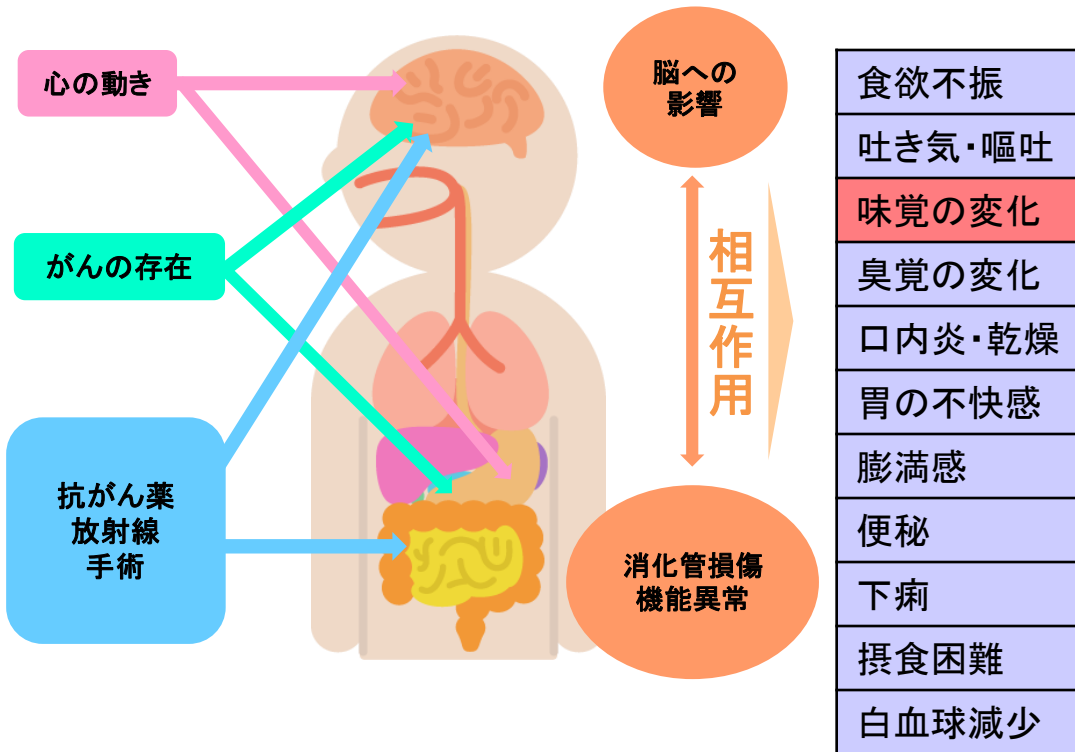


がん治療と食事

がん化学療法看護認定看護師：田代陽子



多くのがんの患者さんは食事について悩みを体験しています。健康なときに楽しみの一つだった食事、だんらんの機会でしたが、その楽しみを失うことに患者さんの心は傷つきます。ではどうして食べられなくなるのでしょうか。

脳では、食欲中枢、嘔吐中枢、味覚、臭覚などの異常が起きます。身体では消化管や内臓への副作用が食事に影響を及ぼします。こうして患者さんは左のようなさまざまな症状を感じるようになります。今回は『味覚の変化』について掲載します。

【味覚の変化】

味を感じにくくなったり、逆に敏感になる、あるいは金属や薬品などの異物の味を感じるなど抗がん薬や放射線によって味の感じ方が変わることがあります。そのために食欲が減退することが少なくありません。味覚がどう変化したかは本人にはしかわかりません。より効果的な対策を立てるには、まず症状を言葉で表して周囲の人に伝えることが大切です。

抗がん薬による味覚神経異常
抗がん薬が味蕾の新陳代謝を阻害したり舌神経や舌咽神経などに障害を与える。

放射線による粘膜炎
舌や粘膜、味蕾が放射線によって変化する。

亜鉛不足
抗がん薬治療によって亜鉛の吸収が低下。

高齢者
加齢と共に味細胞が減少する。唾液分泌低下。



抗がん剤で舌の感覚がなくなり、食べ物がまずい。

放射線で味覚がまひして...

なにを食べても同じ味...

唾液が出なくて臭覚もなくなった。味を強く感じる。



- うがいやあめをなめて唾液の分泌を促し、乾燥を防ぎましょう。唾液は食べ物を溶かして味蕾が感知する働きを助ける作用があります。
- 歯磨きも効果的です。口のなかを汚れていると味が変わってきます。口の中を傷つけないようにブラッシングしましょう。



- 工夫**
- ・うまみやこくをかきかせたり、酸味をかきせる
 - ・食材の味を活かす、冷ましてから食べる
 - ・カレー、しょうが、梅などでアクセントをつける

亜鉛を多く含む食材
赤み肉やレバー、かきなど。植物性食品では、穀物、豆類、ナッツなど。

山形済生病院では、皮膚・排泄ケアの専門の看護師が、地域の訪問看護師の方と一緒にご利用者の元へ訪問する活動を行っています。

紹介！

褥瘡(床ずれ)がある方、人工肛門や人工膀胱がある方で管理に困っているなどの問題をお持ちの方に、専門性の高い看護師(皮膚・排泄ケア認定看護師)が訪問看護師の方と連携し、訪問を行っています。

専門的な知識と技術を持つ専門性の高い看護師と訪問看護師の方が連携してケアを行うことで、生活の質の改善が期待できます。



担当：皮膚・排泄ケア認定看護師、診療看護師
黒木 ひとみ

「同一日訪問」ご利用の流れ

①お申し込み

患者様やご家族が専門性の高い看護師の訪問を希望される場合は、担当の訪問看護師の方にご相談ください。

* かかりつけの先生にも、同行訪問の了承をいただいてから支援いたします。

* 専門の看護師訪問については、訪問看護ステーションの看護師に対する費用とは別に 利用料金が必要になります。医療保険を利用でき、いずれも月1回です。

1割負担：1290円、2割負担：2580円、3割負担：3860円となります。

交通費は別途いただきます(往復10km未満 200円・往復10km以上20km未満 300円・往復20km以上30km未満 400円・往復30km以上 500円 上限500円)。

(ご了承頂ければ、同意書へのサインをしていただきます。)

②訪問日程の調整

利用者の方および訪問看護師の方と訪問の日程を調整します。訪問のご希望日があればお知らせください。

③訪問看護師との訪問

予定されていた日時にご自宅に伺います。訪問後は、訪問看護師の方とケアの内容について検討し、かかりつけの先生とも情報を共有します。

(同一日訪問は、原則月1回になります)

申し込み、相談、ご不明な点は「山形済生病院 地域連携室」までご連絡をお願いします。